

令和5年度 泉が丘小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるように、確かな学力と豊かな心、健やかな体を持ち、これからの社会を力強く生き抜くことができる力をもった、たくましい児童を育成する。

- ・ 進んで学び、基礎・基本をしっかりと身につける子 （しっかり学ぶ 泉っ子）
- ・ 学びをもとに考え、問題解決ができる子 （よりよく生かす 泉っ子）
- ・ 自分の生き方を考え、誠実で思いやりがある子 （なかよく生きる 泉っ子）
- ・ 健康や安全に気をつけ、元気に生活できる子 （元気でがんばる 泉っ子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童一人一人が、皆とともに生き生きと輝く学校」を目指す。

- ・ 児童が夢と希望を持ち、明るく活気にあふれる学校
- ・ 気持ちのよい環境で、温かい心の触れ合いに溢れ、仲間とともに仲良く学べる学校
- ・ 家庭・地域と連携した教育活動を推進し、信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）一人一人を大切に、全人教育を目指す学校 〔一人一人の児童を大切にしよう〕

学校教育のすべての領域と機能を通じて、一人一人の児童について知・徳・体の調和のとれた成長を促すとともに、個人的資質及び公民的資質の伸長を図り、教育目標の具現に努める。

（2）これからの社会を力強く生き抜くために必要となる資質や能力をしっかりと育成する学校

〔日々の授業に力を尽くそう〕

すべての教科領域で、「基礎的・基本的な知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を通じた質の高い教育の充実に努める。

（3）児童の思いを豊かにする学校

〔子供が通いたくなる学級・学校をつくろう〕

豊かな感性を育て、互いに高め合える学級集団の育成を推進し、いじめ・不登校・集団不適應など、児童指導上の課題解決に努める。

（4）「社会に開かれた教育課程」を推進し、家庭・地域に信頼される学校

〔地域とともに子供たちの未来を考えよう〕

伝統ある校風を基盤に、児童・地域の実態や思いを踏まえた教育を推進するとともに、子供たちが未来社会を切り拓くために必要な資質や能力とは何かを地域や社会と共有し創造的・計画的に連携を進める。小中一貫教育の推進にも積極的に取り組む。

（5）教職員が自ら学び生き生きと勤務する学校

〔自ら学び生き生きと働こう〕

教職員としての自覚と使命感を持って、一人一人が絶えず研究と修養に努めるとともに、教師自身の生活の質を改善し、生き生きと働けるようにする。

〔泉が丘地域学校園教育ビジョン〕

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成 ～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～
泉が丘中・今泉小・泉が丘小の3校が連携・一貫して「学び・共に行動し・鍛える」教育実践に取り組むことにより、3校共通の学校経営の重点である「児童生徒の人間関係構築力」の育成を図り、相互に関わり合いながら「共に学ぶこと」「共に行動すること」「共に生きること」について考えさせることにより、各校における教育課程実践の充実・深化を図る。

4 教育課程編成の方針

（1）学校教育目標達成のために設定された学校経営の理念及び学校経営の方針、地域学校園の教育ビジョン、今年度の重点目標、今年度の努力点や具体策を踏まえ、全教育課程に意図的・計画的・系統的にその具現化を図るため、教科等横断的な視点に立って編成する。

（2）児童の学校生活の場として設定している、朝の活動、授業時間（各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間＜泉の時間＞、特別活動）、休み時間（業間、昼休みを含む）、給食の時間、清掃の時間を基本的な枠組みとして教育課程を編成し、各教育活動相互の関連とその配置のバランスを図り、時数を確保する。

- (3) 年間的な枠組みとしての2学期制をもとに、教育内容の設定と授業・教育活動時間相互の有機的な関連、及び効果的な教育活動の規模等について、計画的かつ重点化が図られ、柔軟性をもちながら機能的であり、教育活動全体として一貫性を確保しながら調和のとれた実施計画を作成することにより、学校教育目標の達成を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】グローバルな社会に向き合い郷土愛を醸成する教育の推進

- ① 学習指導の充実（学力向上）を図ることを最優先と位置づけ、新学習指導要領の趣旨を理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業改善の推進を大きな柱として取り組む。
 - ・ 「令和の日本型学校教育」構想のもと ICT を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業改善に取り組む。
- ② 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
 - ・ 学校経営方針、具体策、本年度の重点目標への取組の様子などを今まで以上に保護者、地域に広く周知していく。新たな課題解決に向けた授業や学校行事等の取組を学校 HP や学校だより、学年だよりなどで積極的に紹介し、保護者・地域住民の理解と協力を促す。
- ③ 泉が丘地域学校園の小中一貫教育、地域の教育資源の積極的な活用により「学校力」のさらなる向上を図る。
 - ・ 地域の教育力を生かした教育活動（地域人材や教育資源の活用等）を積極的に展開し、「地域とともにある学校づくり」を着実に推進する。
- ④ 勤務時間を意識した働き方改革を推進し、校内の業務の適正化・明確化・効率化を図る。
 - ・ 日常業務の精選や行事・日課の更なる見直し、ICT 活用による労力軽減を推進し、限られた時間の中で児童に接する時間を確保して適切な指導を行えるようにする。
 - ・ 働き方への教職員の意識改善を進め、自己の充実を図る。

【学習指導】確かな学力の育成

○ 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を積極的、具体的に進める。

- ① 教師が、児童に身に付けさせたい力を明確に認識しておくとともに、授業の目標（めあて・ねらい）を児童自身が確認できるようにし、学習計画をもとにした学習の見通しをもたせた上で、各教科等の「見方・考え方」を働かせて課題にじっくり取り組めるよう、発問や学習活動を工夫する。
- ② 思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動を充実させる。
- ③ 本時の目標や評価規準に基づいたまとめや振り返りを確実に行うことにより、児童に「何を学んだのか」を実感させるとともに、振り返りに対する具体的な言葉かけを行い、学習意欲や主体的に学習する態度等を養う。
- ④ 高学年での教科担任制を積極的に推進し、効率的な授業研究を行うとともに専門性の高い授業展開を目指す。

○ 個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業を推進する。

- ① 情報活用能力等の学習の基盤となる基礎的基本的な資質・能力等を土台とし、ICT 機器を効果的に活用しながら、一人一人の興味・関心・能力に応じた学習活動や学習課題に取り組む学びを充実させるとともに、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら課題に取り組む態度を養う。
- ② プログラミング学習を生かした論理的な思考の育成を図るとともに、進んで表現しようとする態度を養う。

【児童生徒指導】豊かな心を育む教育の推進

- ① 心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりなどを育成するとともに、これからの社会において特に必要となる、多様な他者とともに協働しながら目標に向かって挑戦するたくましさ等を養う。
- ② いじめをはじめとする問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に向けて、教職員が組織的に対応できる体制作りを推進する。

- ③ 複雑化する問題へ対処するために家庭との協力はもとより、地域社会・関係機関とも連携を強化した取組の充実を図る。

【健康（体力・保健・食・安全）】 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進

- 1 新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症の予防について正しく理解し、適切な行動をとるなど、健康で安全な生活を送れるよう指導する。
- ② 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成するために、自らの健康面や体力面のよさや課題を把握し、自分に応じたためあてを設定し、健康（体力・保健・食・安全）について進んで活動に取り組むことができる児童の育成を目指す。
- ③ 運動に親しもうとする態度や能力のより一層の育成を目指し、児童の発達段階や実態に応じた運動量を確保した授業（特に投力向上に向けた運動）、休み時間を活用した運動イベントの企画等の工夫（運動委員会主催等）により運動機会を創出することで、運動の日常化を図る。
- ④ 安全教育・安全指導の充実と危険に対して自らの身を守る行動ができる児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 学習活動の中でグループ学習や友達と意見を伝え合う活動を取り入れることで、自分の考えを深めたり広げたりできるような機会を設ける。 ② 実社会や実生活に関連し、児童が興味や関心をもてるように教材・教具を工夫する。 ③ ICT機器や一人一台端末、図書資料等、必要な情報を収集し、活用させることで進んで学習に取り組むことができる環境を整える。 ④ 学年に応じて、自主学習を推進し、「 <u>家庭学習の手引き（泉が丘地域学校園版）</u> 」の活用による家庭学習の習慣化に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.5%であり、十分達成している。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、学習活動の中でグループ学習や友達と意見を伝え合う活動を取り入れることで、自分の考えを深めたり広げたりできるような機会を設ける。 ICT機器や一人一台端末、図書資料等、必要な情報を収集し、活用させることで意欲的に学習にできるよう意図的に学習活動に取り入れる。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 道徳的価値を実生活の中から捉えられるような道徳の授業を実践し、生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。 ② 係活動や当番活動、縦割り班活動など、周囲のために活動する場を積極的に設定し、自己有用感を高める。 ③ 人権に関する作文や標語、四コママンガを作成し、効果的に掲示することにより、人権尊重の精神を涵養する。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 94.2%で、前年度の 94.3%とほぼ同数で、高い達成状況である。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組み、「よく考えた、分かった、できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。 ② 児童が自己肯定感を高められるよう、係や委員会活動などで活躍できる機会を工夫して設けていくとともに、各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛する機会を積極的に設ける。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.9%であり、前年度の 90.6%を若干下回ったものの、引き続き高い達成状況である。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。係や委員会活動等、児童の主体性を重視した活動やよさを互いに認め合う機会を設けていく。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 保健委員会からの呼び掛けや生活習慣チェック等を通して、児童が自分の健康状態に意識をもち、生活習慣（食事・運動・歯磨き・感染症の予防等）を見直していけるようにする。 ② 交通安全、生活安全、災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を通して指導し、自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けさせる。 ③ 学習内容に合わせて栄養教諭や家庭と連携を図りながら、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.5%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。②については、自分の身は自分で守る意識を高められるよう、様々なバリエーションを想定し、児童が主体的に判断する場面を取り入れた計画を立てていく。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① キャリアパスポートに日々のめあてや反省の記録を蓄積し、自分自身のよさや成長を実感できるように努める。 ② 係活動や当番活動など、周囲のために活動する場を積極的に設定し、自己有用感を高める。(A2再掲) ③ 異年齢集団と関わるよさを実感できるよう、縦割り班活動や児童集会などの、児童会活動の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.6%で目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。 キャリアパスポートや道徳ファイルの記録の蓄積や振り返りにより、児童の自己肯定感や自己理解に役立てる。 係活動や当番活動など誰もが活躍できる場を設定するとともに、活動の途中で振り返りの時間を確保し、意欲をもって活動を継続できるように努める。 縦割り班による遊びや高学年による低学年への登校後の朝の支度や清掃の手伝いの活動等により、自己肯定感や自己理解を育む。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、外国語活動(英語)の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上 A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業では、英語によるやり取りを中心として展開することによって、児童が英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養う。 ② ALT をあらゆる場面で活用し、外国語活動の指導の工夫や生きた英語に触れる機会の充実を図る。 ① 「宇都宮学」を計画的に実施し、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ② 児童の実態や発達の段階を踏まえ、各教科・領域において地域の教育資源や資料等を活用し、地域のよさを理解する。 ③ 各教科や領域で学んだことを通して、児童が宇都宮の良さを実感できるような掲示物の工夫を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 82.4%であり、数値指標よりやや下回った。 【次年度の方針】 外国語活動(英語)の授業で、基本的な表現を身に付けるように繰り返し練習することで児童に自信をもたせるよう働きかける。また、英語を使ったやりとりの機会を増やし、児童が達成感や満足感を味合わせる声掛けや支援を行う。 【達成状況】 児童の肯定的回答は 82.4%であり、達成している。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、生活科や社会科、総合的な学習の時間などの学習を計画的に実施し、地域への興味関心を高めさせるようにする。 宇都宮産の食材を使った給食を紹介することで地域の良さに気づき、郷土愛を育成する。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 教職員が ICT 機器の特性を知り、授業で効果的に活用できるよう、校内研修等で技能向上を図る。 ② G I G Aスクール構想一人一台端末の充実に向け、児童が ICT 機器に慣れ親しみ、学校や家庭で適切に活用することができるよう、授業において積極的に使用する。 ③ 各種年間指導計画に図書の利用を適切に位置付けるとともに、司書と連携を図って計画的な図書資料の充実に努める。 ④ 正しく ICT 機器を活用し、情報を適切に扱うことができるよう、情報モラル教育を意識した指導に努める。 ⑤ ICT 機器を活用した児童の活動の様子を、学校ＨＰや各種だより等で積極的に発信していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.7%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。ICT 機器を使うと効果的になる場面や活用の仕方を、学年の実態に応じて実践しながら探っていく。①については、新しく学校現場や授業で活用ができそうな機能やツールが増えてきているため、新しい機能やツールなどを周知できるようにしていく。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 総合的な学習の時間や理科、社会において、環境や地域、平和などをテーマとして、SDGsとの関連を図りながら身の回りの課題を探究的に解決していくことにより、地域や社会に目を向け、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 ② 児童の実態や発達の段階を踏まえ、各教科・領域において地域の教育資源や資料等を活用し、地域のよさを理解する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.8%であり、達成している。 【次年度の方針】 環境問題をはじめ、様々な事象などを取り上げてSDGsとの関連を図る。また、教科や特別活動において持続可能な社会を構築するための機会を設けることで、さらに児童の関心を高める。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒職員の肯定的回答 95%	① 職員会議時の児童に関する情報交換等を活用する等、特別な支援が必要な児童の実態や支援の手立てについて共通理解を図り、組織的な支援にあたる。 ② 特別支援学級に加え、通常の学級において特別な支援を必要とする児童についても、個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を行う。	【達成状況】 職員の肯定的回答は 97.7%で肯定的割合を上回り、目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。職員会議等の児童に関する情報交換等を活用し、特別な支援が必要な児童の実態や支援の手立てについて共通理解を図り、必要に応じて適宜ケース会議を設定し迅速かつ組織的な対応ができるようにする。 特別な支援を要する児童について個別の指導計画を作成し、児童の実態に応じた適切な支援を行うようにする。

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒児童の肯定的回答 95%以上	① いじめは絶対に許されないという考えのもと、教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘小いじめ防止基本方針」に基づいた組織的・計画的な取組を推進する。 ② いじめアンケート、教育相談を通して、いじめの早期発見に努めるとともに、被害者の立場に立って継続的に関わることにより、確実な解消を目指す。 ③ 児童会が主体となつての呼びかけやポスター掲示等による「いじめゼロ運動」を展開し、一人一人がいじめに対する正しい判断力や行動力を持つことができるようにする。 ④ 人権に関する作文や標語、四コママンガを作成し、効果的に掲示することにより、人権尊重の精神を涵養する。【A2再掲】	【達成状況】 児童の肯定的回答は 98.1%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘小いじめ防止基本方針」に基づいた組織的・計画的な取組を推進する。 いじめの未然防止、早期発見・早期対応のための全児童対象としたいじめの実態調査を年 4 回実施する。実施後は職員同士で共通理解し、必要に応じてケース会議を設定し、児童への支援方法を相談していく。 児童会が主体となつて本の読み聞かせを行い、一人一人がいじめや人権に対する正しい判断力や行動力をもつことができるようにする。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」⇒職員の肯定的回答 95%以上	① 道徳の授業を通して、心の教育の充実を図り、自己肯定感を高める授業づくりに努める。 ③ 児童が自己肯定感を高められるよう、係や委員会活動などで活躍できる機会を工夫して設けていくとともに、各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。 【A3再掲】 ③ Q-U 等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い、学業指導の考えに基づき、帰属意識と規範意識を高める学級経営を行う。 ④ 新たな不登校を生まない取組を推進し、スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制やケース会議の充実を図るとともに、児童の心のケアに努める	【達成状況】 職員の肯定的回答は 100%だった。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。 本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組み、「よく考えた、分かった、できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。 児童が自己肯定感を高められるよう、一人一人のよさを発揮できる場や授業、帰りの会等で児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。 Q-U 等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い、学業指導の考えに基づき、帰属意識と規範意識を高める学級経営を行う。 新たな不登校を生まない取組を推進するとともに、年 2 回の教育相談、スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制の充実を図り、児童の心のケアに努める。
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、児童（生徒）の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 学校行事や縦割り班活動に、児童の願いや思いを反映させ、意欲的に参加できるようにする。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等を認め合い尊重しながら生活できる態度を育てる。 ③ 学校生活アンケートや Q-U、年間 2 回の教育相談を実施し、問題行動の早期発見に努める。 ④ 児童が自己肯定感を高められるよう、一人一人のよさを発揮できる場や授業、帰りの会等で児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は、92.7%で、高い達成状況である。 【次年度の方針】 授業や帰りの会等で、児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。そして、一人一人の人権を大切にするとともに、児童が自己肯定感を高められるようにする。

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上	① 本時のめあて（育成を目指す資質・能力）を明確にし、各教科等における見方・考え方を働かせながら主体的・対話的で深い学びを実践し、振り返りを通して児童が達成感を得られるような「分かる授業」の実践に努める。 ② 個別最適な学びと協働的な学びを融合することにより、基礎・基本を確実に習得させ、あらゆる場面で活用できる力を育成する。（引き続き一人一台端末の有効活用をする。） ③ 授業公開の充実を図り、研究成果を教職員が伝え合うことで、学校全体の指導力の向上を図っていく。また、成果や課題について相互に意見を交換し合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。	【達成状況】 児童・保護者の肯定的回答は 98.2%, 88.1%であり、十分達成している。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、本時のめあて（育成を目指す資質・能力）を明確にし、各教科等における見方・考え方を働かせながら主体的・対話的で深い学びを実践し、振り返りを通して児童が達成感を得られるような「分かる授業」の実践に努める。 個別最適な学びと協働的な学びを融合することにより、基礎・基本を確実に習得させ、あらゆる場面で活用できる力を育成する。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① すべての教職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を自覚しながら協働的に取り組むことによって、学校教育目標の達成を目指す。 ② 教職員の同僚性を大切にし、互いの持ち味や専門性を生かしたチームワークづくりに努める。 ③ 報告・連絡・相談を徹底し、問題の把握と適切な対応に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.5%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 各々が担当する校務分掌において、質の向上を目指すとともに、個々の専門性を生かしながら連携・協力をさらに深め、業務の円滑化に努めていく。 事務職員、司書・栄養教諭、少人数指導・専科教員、かがやき担当、スクールカウンセラー等と連携を密にした教育環境整備や児童支援を行う。 職員全員が、学習指導・児童指導・健康管理等において、速やかに管理職への伝達を行い相談できるよう、よりよい職場の環境づくりに努める。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 今年度導入した毎週火・木・金曜日の短縮日課の効果を検証しながら、教職員一人一人が、ワークライフバランスの重要性を考え、業務の効率化に努めるとともに、ノー残業デーを取り入れた勤務環境を構築する。 ② ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、日報の電子掲示、学校日誌の入力軽減、週案の電子化、ペーパーレス化等の取り組みを図りながら、業務の効率化を図る。 ③ 教員の負担軽減に向け、各種行事や活動について、学年主任会や打ち合わせによる合意形成を図った上で、改善や見直しを行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 81.8%で、数値目標を 3.2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度は今年度から導入した日課を継続し、放課後、業務にあたる時間を確保することで、教材研究を充実させ、授業内容の質や指導力の向上を図っていく。 さくら連絡網や校内電子掲示板を積極的に活用することで、ペーパーレス化を推進し、事務に費やす時間の短縮化を図っていく。 教育活動がコロナ禍前に戻りつつある中、業務の改善や学校行事の見直しについて、学年主任会や打合せで話し合い、共通理解を図りながら遂行することで、教職員が気持ちよく連携・協力できる職場環境づくりに努めていく。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① <u>泉が丘地域学校園教育ビジョンに基づき、児童の人間関係構築力の育成を重点として小中一貫教育を実践する。</u> ② <u>各校の効率的な学校運営を支援するため、学校一人配置職員の連携を密にし、学校園で一貫した事務室運営や保健指導、食育等の取組を推進する。</u> ③ <u>小中合同の授業力向上プロジェクトや児童生徒指導強化連絡会の充実を図り、学校園として学習面や児童生徒指導面での向上を図る。</u> ② <u>越戸川清掃や乗り入れ授業等、小中が連携して行っている教育活動の様子を学校HPや各種だより等を通じて周知する。</u>	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 88.6%で、目標を下回った。 【次年度の方針】 引き続き小中が連携・協力し、「学び・共に行動し・鍛える」教育の実践に努めていく。 一人配置職員の連携を密にし、実践可能な教育活動を計画・実践していく。 泉が丘中、今泉小の全職員が参集する分科会を年2回行い、共通した目標に向けての教育活動を行うことで、授業力・指導力の向上を図っていく。また、児童生徒指導主任を中心とした強化連絡会・情報交換会を年3回行うことで、児童生徒指導を地域学校園で進めていく。 宮つ子チャレンジでの中学生受け入れ、合同越戸川清掃、乗り入れ授業の様子を、校内放送、学校HP等を通じて積極的に情報発信し、「小中一貫教育」の取り組みへの理解を高めていく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、実施可能な内容を模索し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ② 地域から学校支援ボランティアを募集し、地域との協働体制の充実を図るとともに、地域の人々の協力に対して活動の様子を校内掲示やHP、学校だより等で広く周知し、振り返りの場を設け、礼状を書くなどして感謝の気持ちをもたせる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 90.9%で、昨年度を0.6ポイント上回った。 【次年度の方針】 地域協議会や民児協関係者との情報交換会で授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら地域との連携をさらに高めていく。 読み聞かせボランティア、ICC 文庫ボランティア、学校支援ボランティアによる読書や教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種だより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。（校内の施設、設備、駐車場など）」⇒地域の肯定的回答 85%以上	① 校内の施設、設備及び校庭の遊具等について定期的な安全点検を徹底し、危険箇所については迅速な対応に努める。 ② 危機管理マニュアルを全体で確認し、避難訓練や引き渡し訓練等を通して不測の事態への対応に備える。 ③ 掲示等の校内環境を整備したり、安全に関する行事の実施方法を検討したりし、利用する人それぞれが自発的に安全に気を付けられるようにする。	【達成状況】 地域の肯定的回答は 89.5%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。引き続き、①の安全点検を継続的にを行い迅速に対応したり、③の自発的に安全に気を付けられるように掲示や校内環境を整備したりする。

6-(2) 学校のデ ジタル推 進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含 む）や業務に、デジタル※を 積極的に活用している。」 ※デジタル・・・一人一台端 末、学校用グループウェア、 校務支援システム、デジタル 連絡ツールなど⇒教職員の肯 定の回答85%以上	① 教室の備品（実物投影機等）を 整備したり、有効な物品を教職員 で共有したりして、学年に応じて 学習しやすい環境となるようにす る。 ② 一人一台端末の管理を行っ たり、効果的な教材を共有したりす ることで、学習活動が円滑に行え るよう、取り組む。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 86.4%で、目 標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。②の 一人一台端末の管理において、今年度 は端末の破損が多く、校内の予備端末 がない状態になっている。端末の丁寧 な扱い方をもう一度指導することで、 端末の破損事故が起きないように努め る。
小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等	B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、時と場に応じたあい さつをしている。」⇒児童の 肯定的回答 85%以上 「児童（生徒）は、時と場 に応じたあいさつをしてい る。」 ⇒地域の肯定的回答 85%以 上	① 児童が主体となって取り組んだ あいさつ運動等、ホームページで 積極的に発信し、啓発を行ってい く。 ② 学級活動や道徳科等の授業を通 して、発達の段階に応じてあいさ つの意義や心的効果について指導 し、校内及び地域の方々への自発 的なあいさつの啓発に努める。	【達成状況】 児童の肯定的割合は 93.1%，地域の 肯定的回答は 85%でそれぞれ目標を達 成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。特に ①については、児童の取組を地域や保 護者にホームページ等で積極的に発信 していく。
	B2 児童は、きまりやマナ ーを守って、生活をして いる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守 って、生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以 上	① 月に 1 回「泉が丘小学校の一 日」を確実に振り返ることができる よう、月末に学校統一で振り返 る日を設け、各クラスに振り返 りのプリントを配布し、秩序ある中 で充実した生活ができるようにす る。 ② 生活当番による児童の実態に合 わせた「生活目標」の焦点化と、 目標達成に向けた指導を行うとと もに、帰りの会等で振り返りを行 い、達成状況を確認する。 ③ 決まりやマナーを守った行動に 対し、児童が互いに認め合う機会 や教師の賞賛によって意識付けな がら自己指導能力の育成を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 94.4%で高い達 成状況である。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。特に ①については、生活目標と関連付け ることで、「泉が丘小学校の一日」を確 実に振り返り、秩序ある中で充実した 生活ができるようにする。
	B3 児童は、進んで運動す る習慣を身に付けてい る。 【数値目標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後 などに積極的に運動してい る。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 児童が扱いやすい物品を整備し たり学校園内で共有したりする。 ② 児童に自己の健康に関心をも って運動に取り組んでもらうための 工夫をする。（新体力テストの結 果の公表、補強運動の紹介） ③ 児童が能力に応じて進んで運動 できる運動機会を創出する。（体 育授業における課題を選択できる 場の設定、検定等の実施、運動委 員会主催の集会）	【達成状況】 児童の肯定的回答は 75.6%で、昨年 度を 14.9 ポイント下回り、目標に届か なかった。 【次年度の方針】 基本的には今年度の取組を継続す る。日課に変更があったり、魅力ある タブレットでの活動が増えたりしてい るため、体育の授業を通して運動の面 白さを味わいながら意欲を高め、現代 の状況や学校の実態に合わせて、児童 が進んで運動したくなるような環境や 運動機会を工夫して整えていく。

B 4 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 ⇒ 保護者の肯定的回答 90%以上		① 「さくら連絡網」を積極的に活用し、学校ガイドブックや学校だより、学校HP等により情報発信の充実を図るとともに、家庭との連携を深める。 ② 地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 (A18 再掲) ③ 授業参観やオープンスクールを行い、保護者や地域住民へ積極的に学校を公開し、地域とともにある学校を目指す。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 92.9%で目標を達成した。また、教職員と地域住民の肯定的回答は 100%であった。 【次年度の方針】 さくら連絡網では連絡事項の速やかな伝達、学校HPでは学校や学年での児童の活動の様子の伝達と、2つのツールを有効活用しながら情報の発信を工夫していく。 地域協議会や民児協関係者との情報交換会で授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら地域との連携をさらに高めていく。 年間 4 回、授業参観・オープンスクールを行うことで学校での教育の様子を保護者・地域に公開していく。
B 5 学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用し、豊かな教育活動を推進している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用しながら、豊かな教育活動を推進している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上		① 児童の実態や発達の段階を踏まえ、各教科・領域において地域の教育資源や資料等を活用し、地域のよさを理解する。 ② 生活科や総合的な学習の時間及び花壇や農園の整備等、地域や保護者から構成される学校支援ボランティアを積極的に活用しながら、学習活動や学習環境の充実を図る。 ③ 地域から学校支援ボランティアを募集し、地域との協働体制の充実を図るとともに、地域の人々の協力に対して活動の様子を校内掲示やホームページ、学校だより等で広く周知し、振り返りの場を設け、礼状を書くなど感謝の気持ちをもたせる。(A18 再掲)	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 93.0%で、目標を達成した。また、教職員の肯定的回答は 90.9%、地域住民の肯定的回答は 94.7%であった。 【次年度の方針】 2 年生生活科の町たんけん、小中合同越戸川清掃、3～5 学年越戸川清掃、6 年「自分の夢」等、地域の教育資源等の活用を積極に行うことで、地域の様子を理解するとともに、地域の教育資源を活用していく。 2 年生のさつまいもの苗植えや芋ほり、5・6 年生の園芸委員による星型花壇での花植え、校内清掃等、学校支援ボランティアとの協働作業により、教育効果を高めていく。 読み聞かせボランティア、ICC 文庫ボランティア、学校支援ボランティアによる読書や教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種たより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

○A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」では、保護者の肯定的回答は、83.7%で0.1ポイント上昇した。地域住民は94.7%と良好な結果が得られた。今年度は、昨年度同様、越戸川清掃（小6・中1交流）や宮っこチャレンジ（中2来校12名の実習）、小中合同会議（対面）等の活動を行い、コロナ禍において制限されていた活動が本格的に再開したことへの評価が数値に表れたと考えられる。今後は保護者に対して、学校HPを中心に活動の様子をさらに分かりやすく周知するとともに、個人懇談や学級懇談会等で情報提供を積極的に行うことで、理解や協力を求めていきたい。また、さくら連絡網を活用しての情報提供についても、学校HPとの併用を考慮しながら検討・実践を進めていきたい。

A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」では、保護者の肯定的回答が90.9%で0.6ポイント上昇した。教職員は、0.1ポイント下降・児童は0.2ポイント下降した。

今年度は、読み聞かせボランティア、ICC文庫ボランティアの活動が制限なく実施された。また、学校支援ボランティアでは64名の登録を受け、「2年生の町たんけん」、「2年生のさつまいもの苗植え芋ほり」、「5・6年の手縫いミシン作業」、「ベルマーク仕分け」、「夏休みの作品仕分け」、「校内清掃」等の活動を行うことができた。これらのことから、ボランティア活動に参加された保護者を含め、活動実績を理解した保護者が肯定的回答率の上昇に関与したことがうかがえる。しかし、ボランティア活動に関わりの薄かった学年等の教職員や児童にとっては、活動の機会に触れることができず、肯定的回答につながらなかったのではないかと推測する。

今後、見守り隊の方や交通指導員の方等との感謝の会等、校庭や体育館での対面形式での交流を充実させることによって、地域の方との関わりについて再認識していくことが大切になってくると考える。

A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」に関しては、回答対象者が教職員のみとなっている。今年

度は、81.8%で、昨年度の「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」と類似のアンケート結果 68.9%より、12.9 ポイント上昇した。適正な職員数のもと、勤務状況の改善を図ることで、教職員の肯定的回答率の上昇に結びついたと考えられる。令和6年度も、勤務環境を整備し、業務の効率化を図っていききたい。

【学習指導】

A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる」では、児童の肯定的回答が目標数値を大きく上回った。実際に学習している児童自身が前向きであると評価している。今後も各教科の学習内容に合わせて学習形態の工夫をし、友達と意見を伝え合う機会を積極的に取り入れて、自分の考えを深めたり広げたりできるように場の設定を行う。

A14「教職員は分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」の児童の肯定的回答は98.2%と非常に良好な結果であった。教職員一人ひとりが「わかる授業」を意識して、児童が協働して課題に取り組む態度の育成に繋がる活動の工夫をし、授業をコーディネートする力を発揮できていた成果が表れている。また、児童の実態に合わせて児童が主体的に学習できるような声掛けや支援を丁寧に行うことで、個に応じた指導の充実化を引き続き実施していくことが大切である。

【生活指導・児相生徒指導】

A2「児童生徒は、思いやりの心をもっている」では、保護者の肯定的回答は昨年度と同等で、A3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」では、保護者の肯定的回答は昨年度より上昇したが、児童の肯定的回答は昨年度よりやや減少した。引き続き、定期的なアンケートの実施や普段の児童観察等から、担任を中心に積極的に居心地のよい学級づくりを行っていく。また、自己肯定感を高められるよう、係や委員会活動などで活躍できる機会を設け寄り添った指導を心がけるようにする。

A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」では、児童の肯定的回答は98.1%で、目標を達成した。A12「教職員は不登校を生まない学級経営を行っている。」では、職員の肯定的回答は100%であった。引き続き、いじめを積極的に認知し解消に努めたり、担任が積極的に居心地のよい学級づくりに努めたりしていく。

【健康（体力・保健・食・安全）】

A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」では、肯定的回答の割合は良好であった。災害時の対応について、自分の身は自分で守る意識を高められるよう、児童が主体的に判断する場面を取り入れた計画を立てていきたい。

A8・20のデジタル機器や図書等に関する項目では、肯定的回答の割合は良好であった。デジタル機器の効果的な活用方法、新しい機能やツール等について、更なる研修が必要である。また、端末の使い方を再度指導し、端末の破損事故が起きないように努めていく。

B3「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」では、肯定的回答の割合は昨年度よりも減少した。体育の授業を通して運動の面白さを味わいながら意欲を高めるとともに、現代の状況や学校の実態に合わせて、児童が進んで運動したくなるような環境や運動機会を工夫して整えていきたい。

7 学校関係者評価

- ・超高齢化社会に向けて、社会福祉活動（奉仕活動）等、体験をさせてはどうか。
- ・学校の近くを歩いていて、子供からの挨拶があると心が和らぐ。児童から先に元気なあいさつをしてくれると嬉しい。
- ・校内を訪ねている外部の方に向けては、児童一人一人が学校を代表する意識をもって、あいさつをすることが大切だと思う。見守り隊の方への挨拶もあるとよい。
- ・寒い季節でも休み時間に校庭で元気に遊ぶ児童の姿を目にすることが多い。
- ・スポーツクラブで、活発に活動する児童が多い。
- ・子どもたちの運動習慣を増やしたり運動が楽しくなったりする取組をしてはどうか。
- ・学年が上がるにつれて、積極的に運動している児童の割合は下がっている。高学年は室内や図書室で過ごす児童が多いのかもしれない。屋内でどのような活動をしているのかに興味がある。
- ・学校 HP で、様々な情報を提供されていると思う。
- ・コロナ禍が明け、行事の精選はどのようにされたのか。
- ・ICTを活用しての授業が推進されているが、文字を書くことの影響はどうか。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

児童の肯定的回答は、8項目において市内小学校の平均(以後：市の平均)を上回った。特に、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」、A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い学力向上を図っている」については、肯定的回答が95%以上と高い値を示している。また、下回った項目は、7項目ある。A17『学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。』以外の項目については、肯定的回答は80%以上を示し、市の平均と同等の値となっている。A17は、保護者・教職員・地域の肯定的回答がそれぞれ83.7%、88.6%、94.7%であるのに対し、児童の肯定的回答は、77.5%であり、市の平均より12.1ポイント低い。小中で連携を図り、児童が実感を伴うことができる活動を模索していく必要がある。また、B3「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」の肯定的回答は、75.6%である。業間休み・昼休みの外遊びの奨励、体育の授業の改善等を通じて、体を動かすことへの興味・関心を高めていきたい。

保護者の肯定的回答は、すべての項目(22項目)において、市の平均を上回っている。なかでも肯定的回答が90%を超える項目は8項目あり、学校教育に対して、高い関心と理解があることがうかがえる。A7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」については、市の平均は上回ってはいるものの、75.1%となっている。生活科、総合的な学習の時間、社会科等において、計画的に郷土学習を取り入れ、自分たちの町への理解を深めていきたい。

本年度においても、地域の教育資源を活用した教育活動を行うことができた。本校独自の質問項目であるB4「学校は、

各種たよりやHP、学校公開などで、できる限りの情報を発信・提供している」の地域の肯定的回答 100%、B5「学校は、地域の自然や環境、人材をできる限り活用しながら、豊かな教育活動を推進している」の地域の肯定的回答 94.7%と、ともに高い値となっている。学校支援ボランティアについては、本年度より「校内清掃ボランティア」を募集して、主にトイレの清掃を行っていただき、校内美化にご協力をいただいた。学校支援ボランティアについては、延べ 200 名を超える方が、本校の教育活動を支えてくださった。また、2 年生の「町探検」、3 年生の「消防署見学」「スーパーマーケット見学」などでは、地域の施設にお世話になり、深い学びに繋がる学習を行うことができた。6 年生の総合的な学習の時間「自分の夢」では、地域を守る人・活躍をする人に注目し、自分のキャリアを形成していくうえで参考となる活動とすることができた。次年度においても、「地域とともにある学校」を目指して、本校ならではの教育活動を展開していきたい。

昨年度、肯定的回答が 68.9%であった「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については、本年度類似の質問項目である A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」において、81.8%の肯定的回答となっている。リフレッシュデーを設けたり、日課の見直しを図ったりしたことの効果があったと思われる。

日課を変更したことに伴い、課題となった清掃への取り組みに対しては、金曜日の朝に清掃時間を設け、清掃活動を週 3 回とする。さらに、PTA の皆様の力添えもいただきながら、環境美化に努めていきたい。

また 学校関係者からは、多大な理解をいただいている中でも、あいさつに関するご意見をいただいている。本年度は、児童会があいさつ運動を行ったり、週目標として取り組んだりしてきた。次年度においても、豊かな心を育む教育の推進を図り、「自ら進んでさわやかなあいさつができる児童」を目指していきたい。